

「調光レンズ」の濃度変化の仕組み

調光レンズは、「紫外線の量」と「温度*」によって濃度が自動的に変化し、眼を保護します。
この際、**紫外線量が多い**ほど、また**温度が低い**ほど、色が濃くなります。

*「温度」とは「レンズ温度」を指しています。



紫外線量・温度と調光レンズ濃度との関係イメージ

レンズの色はイメージです。製品の種類にもより、実際に感じる色合い・濃度とは異なります。



温度が高いと色が濃くなるわけではありません。

夏季にまぶしさを防ぐ場合には別途サングラスの併用をお勧めします。

「調光レンズ」の特性をご理解いただき、快適にお使いください。

レンズ色が薄い時でも、
紫外線はしっかりカットしています。



日傘や帽子などで紫外線を遮ると、
レンズ色は濃くなりません。



紫外線カットガラスで覆われた車の中では、
レンズ色は濃くなりません。



紫外線がレンズに当たる角度によっては、
レンズ色が濃くならない場合があります。



温度が低いと、高いときに比べ、屋内に入っても
レンズがクリアになるまで時間がかかります。



レンズ表面の傷つきにご注意ください。
傷が劣化を早める場合があります。



※紫外線により徐々に経年劣化し、
濃度の低下や色調の変化が生じます。

イラストは製品特性をご理解いただくためのイメージ表現です。

各メーカーの「レンズ取扱説明書」も併せてご覧ください。

日本医用光学機器工業会 眼鏡部会